

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎学校評価資料
—生徒、保護者、教師を対象とする調査結果—

令和8年3月

(1) 調査内容

調査は、生徒、保護者、教員を対象に実施し、次の内容について回答を求めた。

【生徒・保護者用】

- Q1 中学・高校の別
- Q2 性別（生徒の性別）
- Q3 学年
- Q4 組
- Q5 SSH 科目受講の有無（中学生は該当せず）

生徒：「学校の様子や、あなたの1学期から今までの学校生活を振り返ってどう思いますか」

保護者：「学校の様子やお子さまの1学期から今までの学校生活をどう思われますか。」

1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：少し思う、4：思う

- Q6 私は学校に行くのが楽しい。(子どもは楽しく学校に行っている。)
- Q7 私は(子どもは)先生を信頼している。
- Q8 私は(子どもは)友人を信頼している。
- Q9 私は(子どもは)将来に目標を持ち、それに向けて努力している。
- Q10 私は授業をうけるのが楽しみだ。(子どもは楽しく授業を受けている。)
- Q11 私は(子どもは)予習復習や課題の提出などに普段から努力している。
- Q12 授業では深く考えたり探究的であったりするような課題が出されている。
- Q13 私は(子どもは)授業や学習において GIGA 端末など ICT 機器をよく活用している。
- Q14 私は(子どもは)グループで活動しながら学習するのが好きだ。
- Q15 私は(子どもは)心配や悩み事がある。
- Q16 私は困りごとや悩み事を相談できる相手がこの学校にいる。
(この学校には、自分の子どもが困りごとや悩み事を相談できる相手がいる。)
- Q17 私は社会のルールや、学校のルールをよく守って生活している。
(学校は社会のルールや、学校のルールをよく守らせようと取り組んでいる。)
- Q18 私は防災や安全に関心があり大切にしている。
(学校は防災意識や安全意識を向上させようとしている。)
- Q19 私は自分の心と身体の健康を保つよう意識している。
(学校は、子どもの心と身体の健康を保つよう取り組んでいる。)
- Q20 私は、お互いの人権を尊重している。
(学校は、お互いの人権を尊重するよう取り組んでいる。)
- Q21 私は(子どもは)家庭で学校のことをよく話す。
- Q22 私は私の保護者によく理解されている。
(私は子どもによく理解されている。)
- Q23 私は通う学校に誇りを持っている。
(私は子どもの行く学校に誇りを持っている。)

【教師用】

Q1	中学・高校の別
Q2	性別
Q3	学年
Q4	組
Q5	なし
Q6	私は職場に行くのが楽しい。
Q7	私は生徒から信頼されている。
Q8	私は同僚を信頼している。
Q9	私は生徒が将来に目標を持ち、それに向けて努力するよう指導している。
Q10	私は学ぶ楽しさを意識した授業づくりを行っている
Q11	私は生徒の学習習慣の向上を意識した指導を行っている。
Q12	私は深く考えたり探究的であったりするような授業作りを行っている。
Q13	私は授業中やその他の活動において生徒に ICT 機器をよく活用させている。
Q14	私は、主体的・対話的で深い学びを目指した授業を行っている。
Q15	私は心配や悩み事がある生徒によく気がつく。
Q16	私は生徒の困りごとや悩み事の相談をよく受ける。
Q17	私は社会のルールや、学校のルールをよく守らせようと指導している。
Q18	私は防災意識や安全意識を向上させようとしている。
Q19	私は、子どもの心と身体の健康を保つよう取り組んでいる。
Q20	私は、お互いの人権を尊重するよう取り組んでいる。
Q21	私は保護者から信頼を得ている。
Q22	私は生徒とその保護者の関係をよく理解している。
Q23	私は勤務する学校に誇りを持っている。

生徒・保護者及び教員ともに質問項目を R1 から 3 者に同様の内容を問う項目に改めた。

(2) 回答者数

対象ごとの有効回答者数は下表のとおりである。

属性	性別			合計
	男	女	無記不明	
対象				
生徒	227	240	7	474
(n=474)	47.9%	50.6%	50.6%	
保護者	140	153	1	294
(n=294)	47.6%	52.0%	0.3%	
教員	13	6	1	20
(n=20)	65.0%	30.0%	5.0%	
全体	380	399	9	788
(n=788)	48.2%	50.6%	1.1%	

(3) 学校生活にかかわる自己評価の（クロス集計）結果

Q6. 学校は楽しい

	回答数	肯定（そう思う、多少そう思う）%
生徒	471	88.1
保護者	295	91.5
教員	20	70

生徒、保護者の肯定的な回答の比率が8割を越え、概ね楽しい学校ではある。一方、2割程度の教員は楽しいと思っていない。

Q7. 先生を信頼(している・されている)

	回答数	肯定（そう思う、多少そう思う）%
生徒	473	77.2
保護者	295	85.1
教員	20	80

保護者、教員の肯定的な回答の比率がいずれも85%と高いが、生徒の信頼度は80%を下回る結果となった。

Q8. 友人(同僚)を信頼

	回答数	肯定（そう思う、多少そう思う）%
生徒	475	90.9
保護者	295	93.6
教員	20	85

生徒、保護者、教員とも肯定的な回答の比率が9割程度あり、互いに信頼する関係にある。

Q9. 将来の目標・努力

	回答数	肯定（そう思う、多少そう思う）%
生徒	472	82.6
保護者	292	82.9
教員	20	100

すべての教員は指導しているが、生徒の2割弱が、現時点では将来について、目標が定まっていない。

Q10. 授業が楽しい

	回答数	肯定（そう思う、多少そう思う）%
生徒	475	73.9
保護者	291	84.2
教員	20	90

保護者、教員とも肯定的な回答の比率が8割以上あるが、生徒の約30%は、授業が楽しいと思っていない。

Q11. 予習復習

	回答数	肯定（そう思う、多少そう思う）%
生徒	474	72.6
保護者	294	78.6
教員	20	65

7割以上の生徒が予習復習に努力している。昨年は7割を下回っていたが、改善がみられる。

Q12. 探究的課題がある

	回答数	肯定（そう思う、多少そう思う）%
生徒	474	90.9
保護者	294	90.1
教員	20	95

生徒、保護者とも、肯定的な回答の比率が9割を越え、探究的課題が出されていることを認識している。

Q13. ICT 機器を活用

	回答数	肯定（そう思う、多少そう思う）%
生徒	474	85.2
保護者	294	90.1
教員	20	65

ICT 機器の活用は、保護者の約9割近くがされていると思っているのに対して、そう思っている生徒は若干少ない。ただ、昨年よりは少し改善は見られる。教員の意識はそれらよりかなり低いようである。

Q14. グループ学習が好き

	回答数	肯定（そう思う、多少そう思う）%
生徒	475	81.7
保護者	294	74.1
教員	20	95

生徒、保護者とも、肯定的な回答の比率が、8割近くある。

Q15. 心配・悩み事あり

	回答数	肯定（そう思う、多少そう思う）%
生徒	473	50.1
保護者	292	31.8
教員	20	85

半数の生徒に心配や悩み事があるのに対して。保護者は30%しか子どもに悩みがあるとは思っていない。この比率は中学生に対する回答とほぼ同じで、中高生とも同じように悩みを抱えている生徒がそれなりにいることがわかる。

Q16. 相談相手

	回答数	肯定（そう思う、多少そう思う）%
生徒	474	80.8
保護者	294	80.6
教員	20	75

生徒や保護者から見て、約8割の生徒には相談相手となる友人がいる。この値は中学生の回答より数%大きく、高校で友人とさらに密な関係になっていることが想像される。ただ、その割合は昨年度より5ポイントほど低下している。

Q17. 社会や学校のルール遵守

	回答数	肯定（そう思う、多少そう思う）%
生徒	474	93.9
保護者	290	75.9
教員	20	90

社会や学校のルール遵守に努めている割合は9割を越え真面目である。ただ保護者は、中学生への回答よりその比率が18%程度低い。

Q18. 防災安全教育

	回答数	肯定（そう思う、多少そう思う）%
生徒	475	84.2
保護者	293	81.2
教員	20	75

防災や安全に関心があり大切にしている割合は、8割程度いて、3者とも昨年度より改善が見られる。

Q19. 心と身体の健康

	回答数	肯定（そう思う、多少そう思う）%
生徒	473	88.2
保護者	295	81.7
教員	20	90

心と身体の健康を保つよう意識している比率は、保護者、生徒とも8割を超えているが、生徒の方が若干意識が高い。

Q20. 互いの人権を尊重

	回答数	肯定（そう思う、多少そう思う）%
生徒	473	94.9
保護者	295	89.8
教員	20	100

互いの人権を尊重すると回答した比率は、生徒、保護者、教員とも9割あるいはそれ以上ある。

Q21. 家庭で会話

	回答数	肯定（そう思う、多少そう思う）%
生徒	471	79.4
保護者	295	76.9
教員	20	75

家庭で学校のことをよく話す生徒と話すと感じる保護者はそれぞれ8割近くある。今年も高校生の方が中学生より家庭での会話の割合で高くなっており、家庭内で会話があることがみうけられる。

Q22. 保護者に理解

	回答数	肯定（そう思う、多少そう思う）%
生徒	474	85.4
保護者	291	84.9
教員	20	75

生徒の8割以上が、保護者に理解されていると感じている。

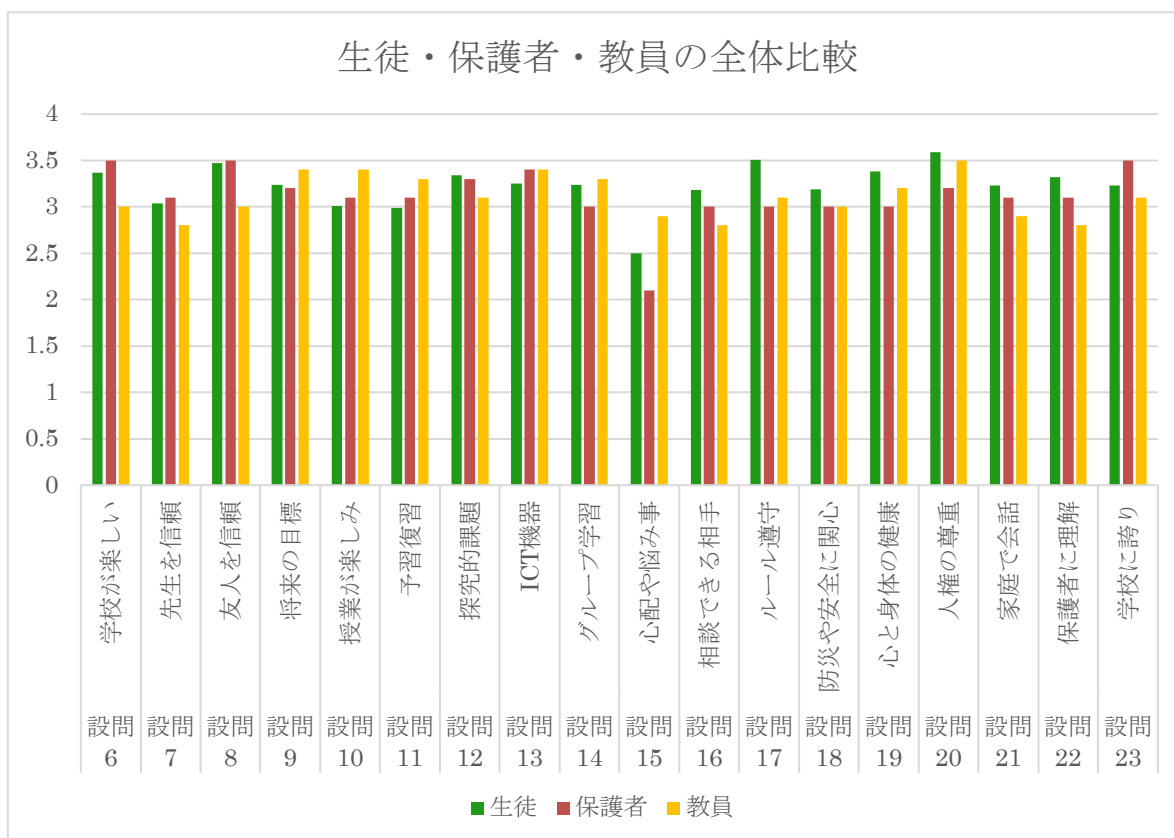
Q22. 学校に誇り

	回答数	肯定（そう思う、多少そう思う）%
生徒	468	82.9
保護者	285	93.3
教員	20	90

生徒は80%以上、保護者、教員ともに90%以上が、学校に誇りを持っている。

4) 学校生活にかかわる自己評価の比較

① 生徒、保護者、教員間比較

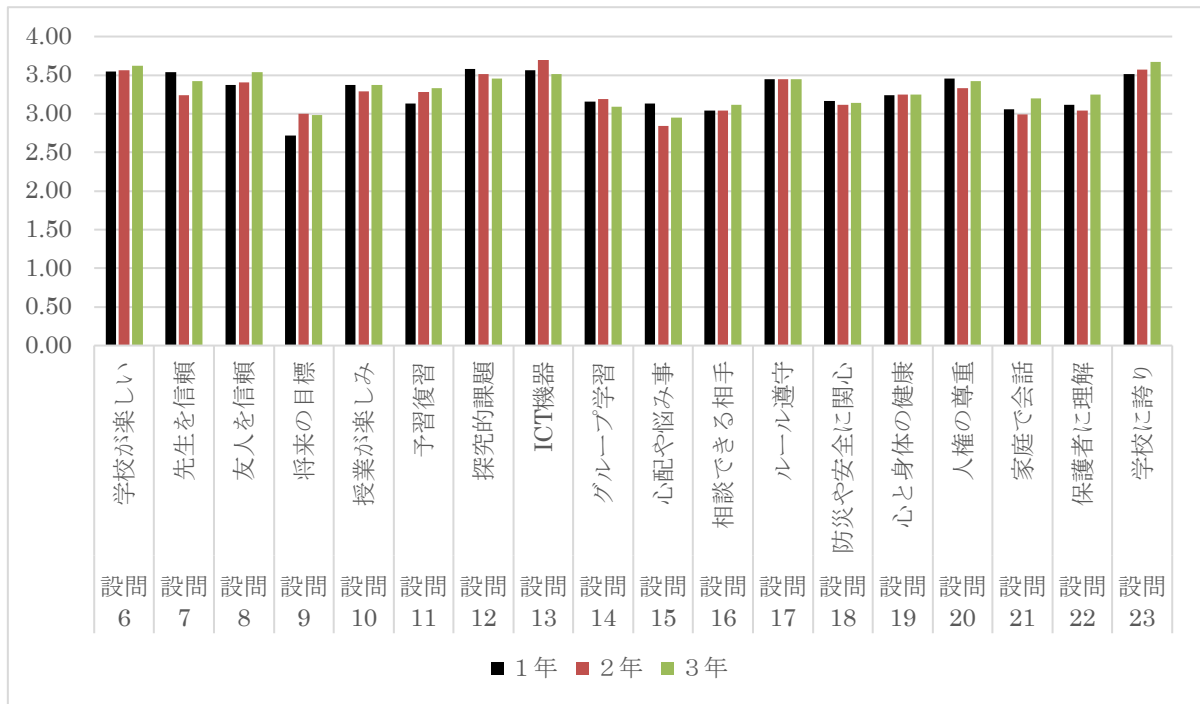


		生徒	保護者	教員
設問 6	学校が楽しい	3.37	3.5	3
設問 7	先生を信頼	3.04	3.1	2.8
設問 8	友人を信頼	3.47	3.5	3
設問 9	将来の目標	3.24	3.2	3.4
設問 10	授業が楽しみ	3.01	3.1	3.4
設問 11	予習復習	2.99	3.1	3.3
設問 12	探究的課題	3.34	3.3	3.1
設問 13	ICT 機器	3.25	3.4	3.4
設問 14	グループ学習	3.24	3	3.3
設問 15	心配や悩み事	2.5	2.1	2.9
設問 16	相談できる相手	3.18	3	2.8
設問 17	ルール遵守	3.51	3	3.1
設問 18	防災や安全に関心	3.19	3	3
設問 19	心と身体の健康	3.38	3	3.2
設問 20	人権の尊重	3.59	3.2	3.5
設問 21	家庭で会話	3.23	3.1	2.9
設問 22	保護者に理解	3.32	3.1	2.8
設問 23	学校に誇り	3.23	3.5	3.1

アンケート項目に対する回答（1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：多少そう思う、4：そう思う）を比率尺度とみなして、生徒、保護者、教員の各項目に対する回答の平均を算出した。

図の左側にある項目(学校でのことがら)では、生徒より保護者の方が肯定的回答率が高い。保護者の学校への期待や信頼度が大きいことを示していると思われる。一方、図の右側の項目(ルール順守や人権の尊重)では、保護者より生徒の方が肯定的回答率が高く、保護者が思う以上に生徒は、社会的常識(社会のルール遵守)を身に着けていると思われる。これらの傾向は、昨年同様である。

② 生徒の学年による比較



		1年	2年	3年
設問 6	学校が楽しい	3.55	3.56	3.62
設問 7	先生を信頼	3.54	3.24	3.42
設問 8	友人を信頼	3.37	3.41	3.54
設問 9	将来の目標	2.72	3.00	2.98
設問 10	授業が楽しみ	3.37	3.29	3.37
設問 11	予習復習	3.13	3.28	3.33
設問 12	探究的課題	3.58	3.51	3.46
設問 13	ICT 機器	3.56	3.70	3.51
設問 14	グループ学習	3.16	3.19	3.09
設問 15	心配や悩み事	3.13	2.84	2.95
設問 16	相談できる相手	3.04	3.04	3.12
設問 17	ルール遵守	3.45	3.45	3.45
設問 18	防災や安全に関心	3.17	3.12	3.14
設問 19	心と身体の健康	3.24	3.25	3.25
設問 20	人権の尊重	3.46	3.33	3.42
設問 21	家庭で会話	3.06	2.99	3.20
設問 22	保護者に理解	3.12	3.04	3.25
設問 23	学校に誇り	3.51	3.57	3.67

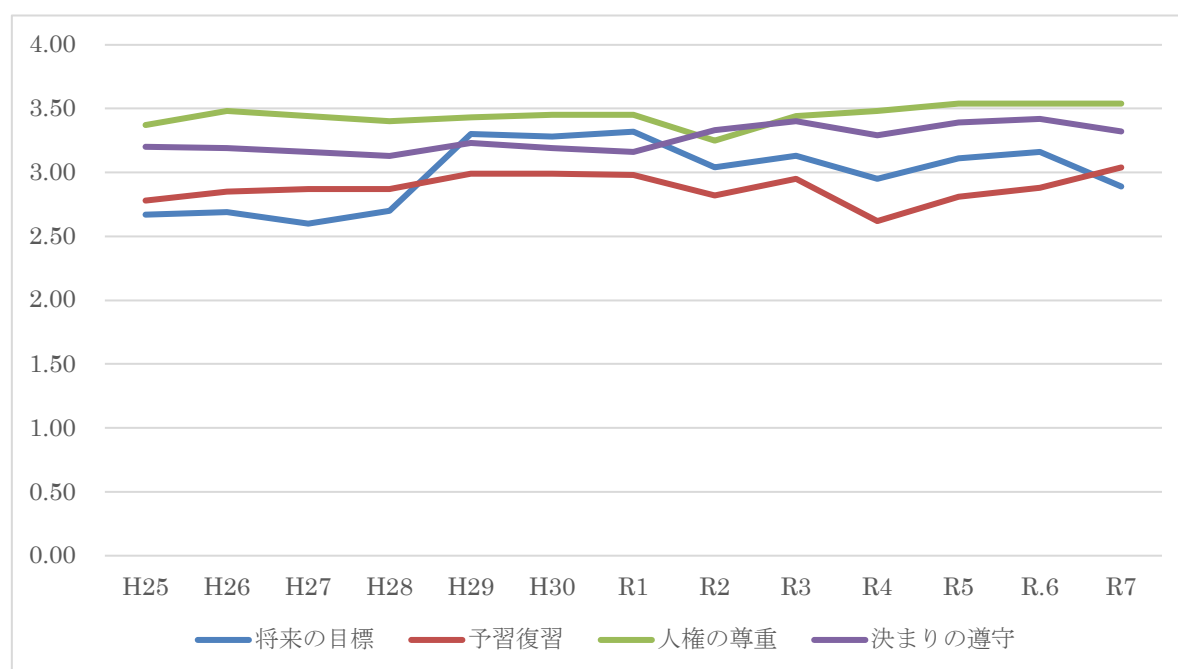
アンケート項目に対する回答（1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：多少そう思う、4：そう思う）を比率尺度とみなして、各学年の生徒の各項目に対する回答の平均を算出した。

各項目の平均値を学年ごとに比較すると、全学年を通じて一定なのが設問6「学校が楽しい」、設問17「ルール遵守」、設問19「心と身体の健康」である。学年を追うごとに微増してるのは、設問8「友人を信頼」、設問11「予習復習」、設問23「学校に誇り」の項目であり、学習習慣や友人関係および学校への帰属意識は学年があがるにつれ定着し、深まるようである。一方、学年進行とともに減少するのは、設問12「探究的課題」や設問14「グループ学習」などであり、授業形態の多様性は少なくなる傾向にある。

③ 年度別推移

アンケート項目に対する回答（1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：多少そう思う、4：そう思う）を比率尺度とみなして、年度別の生徒の各項目(継続して調査している項目)に対する回答の平均を示した。

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R.6	R7
将来の目標	2.67	2.69	2.60	2.70	3.30	3.28	3.32	3.04	3.13	2.95	3.11	3.16	2.89
予習復習	2.78	2.85	2.87	2.87	2.99	2.99	2.98	2.82	2.95	2.62	2.81	2.88	3.04
人権の尊重	3.37	3.48	3.44	3.40	3.43	3.45	3.45	3.25	3.44	3.48	3.54	3.54	3.54
決まりの遵守	3.20	3.19	3.16	3.13	3.23	3.19	3.16	3.33	3.40	3.29	3.39	3.42	3.32



継続してアンケートを実施している4項目について、平成25年から12年間の推移を図に示した。これら4項目の中で、コロナ禍の過去3年(R2~R4)に比率が大きく変化した項目は、「将来の目標」についてである。先行きの見えない不安な世相を反映してたのか、将来の目標を持ちにくい、努力できない、雰囲気があったのかもしれない。また、「予習復習」の項目もコロナ禍の時期は減少傾向が見られた。しかしR5から、全体に回復傾向が見られ、コロナ禍の時期を脱したかに思える。